

# いしづくりおおとりい 石造大鳥居

市指定有形文化財（建造物）

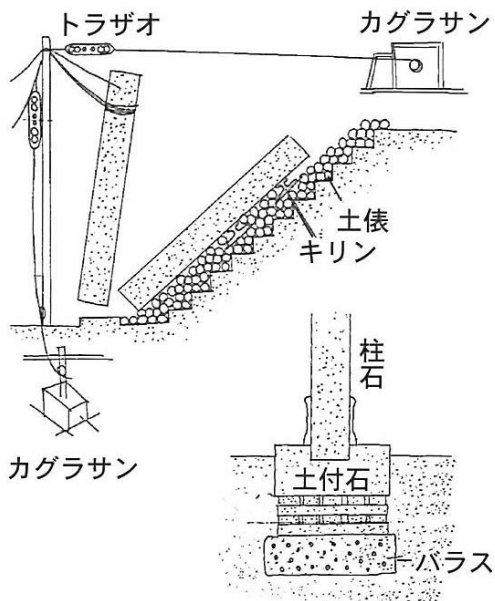
鳥帽子山公園の桜は南陽市が誇る景観の1つですが、撮影スポットはやはり石の大鳥居の前でしょう。毎年4月18日には新しい大注連縄おおしめなわが替えられます。

この大鳥居の石材は、鳥帽子山八幡宮裏から切り出されました。継目なしで高さ約11mもあり、日本一の大きさと言われています。太い柱の上に12.7mの笠石が載っています。重さはどのくらいあるのでしょうか。明治36年11月に建てられたと石柱に彫ってありますが、クレーンのない時代にどうやって建てたのでしょうか。

文献を見ると、まず、周囲から石段や敷石の石材を切り出し、最後に大鳥居の石材を切り出したそうです。一番大きな笠石をそりで運ぶときは、150人の人夫でも動かず、消防団の応援を受けたそうです。

さて、大きな石柱をどのようにして建てたのでしょうか。故錦三郎先生が描かれた図を見てみましょう。横たえた石柱を少しずつ持ち上げては土俵を積んでいったようですね。使った土俵は1000俵ぐらい、本殿境内の高さまで積みあがったそうです。

もう一つ、大鳥居が倒れないよう、土台は図のようにしっかり固めてあるそうです。この大鳥居、名石工吉田善之助と名建師ひきし市川良次によって建てられました。



南陽市文化財保護審議委員 須崎寛二  
平成28年4月1日号 市報なんよう掲載

